

---

# **青春爆心録『俺の学校戦争』**

鈴木成海

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

青春爆心録『俺の学校戦争』

### 【NZコード】

N74740

### 【作者名】

鈴木成海

### 【あらすじ】

主人公が青春を取り戻していくヤンキーのヤンキーによるヤンキーの「メディみたいな感じの話。

## 序章（前書き）

私が書く一作目といつか一作目の一章を考えてる時思いついたので投稿してみました。まあいつかを中心にしてこいつと思います。どうかヨロシク^^

## 序章

俺は入学早々喧嘩に明け暮れていた。

「俺の青春はこんな感じで終わってしまうのか！？」

そんなことを思いながら俺はまた喧嘩をしていった。

そしてまた俺は喧嘩に勝つた。

「またやっちまつた・・・」

俺の手は拳は皮が剥け血だらけだった。

「まあいつものことか」と思つたが、何か胸騒ぎがした。

そして帰ろうとしたとき！

目の前にはこの世のものは思えない美しい女子高生が立っていたのであった・・・

俺は、その子に一悶ぼれしたのである。

## 序章（後書き）

ぜひこの小説は続けたいので続きを読むでください。

## 第一章 美少女

前

回のあらすじ

俺は喧嘩に明け暮れていた。喧嘩が終わると田の前に  
は美少女

美少女が話しかけてきた

「あんた強いの？」

俺は思わず

「えつ！？」と言つてしまつた。

美少女は

「だからあんたは強いの？」と怒鳴り散らす。

「ふつお前よりは強いんじゃねえかな？」と鼻で笑い言い返すと

美少女はいきなり蹴りかかつてきた。

俺はそれに驚き反応ができず蹴りをくらつてしまつた。

「んあ・・うつ・・・・・」

そして俺は氣を失つてしまつた。

美少女は

目が覚めるとそこには見たこともない部屋だった

起き上がり帰るうとした時あの美少女が入ってきたのだった。

「お・お前は！？」と俺がいうと

「ああせつときは『ごめんね』やわらかい口調でそう言つた。

「えつ！？」と思わず言つてしまつた。

俺はいろいろ考えた。

「まさかあいつは双子なのか？」

「それとも一重人格？」

「ああ！…分けわかんねえ

…！」

すると

「ああ私、萩本優子（さぎもとゆうこ）っていうの  
「えっと・・・俺は杉浦敦（すぎうらあつこ）」

美少女はニッコリ笑い

「ヨロシクね」と言つてきた。

そして俺は

「ヨ・ヨロシク・・・」と言つた。

# 第一章(2) まさかの・・・

卷之三

俺はいいなあ、と覚ましたで起きた。

「やべえ！？」

だがもう気付いた時には遅く俺は廊下に立たされていた。

「ハノ　　彌の子ローラー

だがほかのクラスにも立たされてるやつがいた。

それは俺の親友と言えなくシヨン」と萩本駿（はきもとしゅん）である。

シーンは、幼稚園からのなつかしい「はなから陽気で正直」と

あいつが俺に気付いた

「あ～う～」と呟んできた。

それは教室の中の先生はもちろん気づいて俺までも怒られた。俺とシウンは放課後残らされることになった。

「おおのまへー、ローラー

「まあいいじゃんあつこ! これもなんかの縁と思ひこむわあ」「そりや腐れ縁だろ」

「そつかあははは」

「まあいつもこんな感じでやつて いるわけである。  
つかあ ものの壁ひねだ？」

「いざなめやうじよひー」

「じゃあ今からゲーセンでも行くか」「

そ  
一  
て  
奔

そして俺たちは学校を抜け出しゲーセンへ行つた。

「そういえばさあ俺この間」

「ペペペ・・・」タイミング悪く携帯がなつた。

「悪い！」俺は携帯に出た。

「ひ～せし～ぶり～」そこには聞き覚えのある声が聞こえた  
「えつ！？」頭が混乱した

「私だよ優子だよ～」

「なんで番号知つてんだよ！」と怒鳴った。

「まあまあ落ち着いて～」と言つている。

「だからなんでつて聞いてんだよ！～」

「ああそりうだつたね弟に聞いたんだ～」と答える

俺はさらに混乱した。

「弟？」と聞いた

「うん今隣にいない？」

隣にはシユンがいるけど・・・

シユンの名前は萩原駿あいつの名前は萩原優子・・・

「まさか弟つてシユン？」

「やっぱ隣にいる？アッハツハ」と笑う

「変わつてくんない？」

「シユンお前の姉から」とシユンに言つ

「あつ姉ちゃん？」と姉と話し出したシユン

俺はそんな中頭が混乱した・・・

なぜなら初恋の相手が親友の姉なのだから  
「なぜだあ～～～～！」俺は心の中で叫んだ

## 第2章 疑問

前回までのあらすじ

シユンの姉はまさかのあれの初恋の相手  
！？

俺は正直戸惑いが隠せなかつた。

シユンの姉だつたとは思いもしなかつた

まあそんなことは考えずに俺は今日はもう寝よつと思つた。

だが俺のなにはまだ疑問が残つていた。

それはあの蹴りをいた姿と家でみた姿それに電話で聞いた印象が

三つとも違つのだつた。

そんな疑問を持ちながら寝た。

次の日俺は、風邪をひいていた

体温計で熱を計ると38・5度もあつたのだ。

「ああ学校に電話するのはだるいなあ～」そんなことを思つた。

まあ親が電話してくれるだらうなどと思つて俺はまた寝た。

何時間がたつたろか俺は目が覚めると「ピ～ンポン～」と音が聞こえた。

俺はだがめんびくむがつて出よつとしなかつた。

だが何度も押してくるのでイラついて出た

「はい～！なんすか？」と怒鳴りながら出た

「よう！俺だよシユン」シユンであつた

「私もいるよ～」と姉の声が聞こえた。

逆に出る気がなくなつた。

なぜだかあいつの声を聞くと無性にイラつく

まさかこれは恋じゃなくライバルしていたのかと思つた  
少し俺はこの気持ちが（恋）ではなく（ライバル）という気持ちに  
変わったことを喜んだ。

そして中にはいつらが入ってきた。

「よつす！」シュンがいうと

俺はいきなりこんなことを言つてしまつた。

「おい、シュンの姉俺とタイマンはりやがれーー」と言つたのだ  
シュンの姉は待つてたかのようにこう答えた

「あたしに勝てるかしら？」

「まあ蹴り一発でKOされちゃうやつに負けるはずないけど~」

その言葉に俺は無性に腹が立つた

「いいわ受けてやるわよ」とシュンの姉が答えた。

「じゃあちょうど一ヶ月後の七時に海上公園で

「わかったわ！」とシュンの姉は答えた。

シュンは何がなんだかわかつてなかつた様子だ

その後俺は事情を話し納得してくれた。

だが俺はこのあと起つる悲劇を分かつていなかつた。

次回

優子が事故に会い！？

シュンと俺は異次元世界に飛ばされる！？

そして新たなる章へ・・・・！

## 異次元世界編

俺は雨の中病院に走っていた。

優子が交通事故にあつたのだ

そして俺は病院に着いた。

すぐさま病室に行くと・・・・・

もう遅かった。

「なんでだよーーー」

「敦落ちつけよーーー」シユンがとめた

「いやーもう喧嘩できないんだってハハハハ

「なんでなんだよ俺と喧嘩できねえじやねえかよーーー

「シユン俺はくやしいよー

「代わりといつちやなんだけど

と優子はポケットから何かをだし敦に渡した。

「なんだよこれ？」

泣きながら言う敦

「ああそれなんか車運転してた人にもらつた物

と笑いながら言う優子

「こんなものいらねえーーーーー

と床に投げ捨てた時それは光った。

そして俺は光に包まれた。

目が覚めると右隣にはシユンがいた

そして左隣りにはとてつもなくデカイ猪がいた。

「えつ！？」

シユンが目を覚めると。

「あれーここどこだー？」

「おいシコン！」

「なんだよ敦」

「逃げるぞ」

「えつ！？なんて？」

「逃げるぞ――――！」

大きな声を出したとたん猪が目を覚まし今にも突進してきそうだった。

「敦それ何！？意味わからんねえんだけど  
シコンもさすがに混乱したようだつた。

だが俺が今言えることは・・・

「逃げるぞ――――！――！」

それと同時に猪が追いかけってきた。

「うおお～～～～～！！！」

二人は全力で逃げなんとか巻いた・・・

俺たちはとてつもなく疲れていた

「ハアハアこれからハアどうする・・・」

敦が言う

「あそこにハア街があるぜ」

シコンがそういうと

「じゃああそこで聞きハア聞き込みしようぜ」

「だな」

俺たちはあの街で聞き込みをすることにした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7474o/>

青春爆心録『俺の学校戦争』

2010年11月8日13時18分発行